

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年4月25日

所属	国際教養学部	職名	准教授	氏名	MIZIRAKLI HALIT
研究課題	メッダフルックにおける演技方法				
研究キーワード	芸能、トルコ、落語、メッダフルック	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	10.人や国の不平等をなくそう	16.平和と公正をすべての人に	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>トルコには「メッダーフルック」という落語に極めて近い伝統芸能がであった。語り手のメッダーフは、鋭く観察した国民の暮らしの中の面白い場面を滑稽化し、臨場感のある演技を提供していた。会話を中心とした表現方法で漸を進め、聞き手を想像の世界の中へ導いていた。宗教や聖人伝説を語ることからスタートしたメッダーフルックには次第に宗教色が薄れ、芸能としての形式や構成において発展を見せた。しかし、20世紀に入って近代化が進む中、ほんの僅かに演じられる程度まで衰退し、20世紀には職業としてのメッダーフルックはその姿を消した。</p> <p>本年度は、メッダーフルックの土台となった歴史的な背景を踏まえながら、芸能としてのメッダーフルックはどのような形態を持つ口承文芸なのかに焦点を合わせた。昔話と日本の落語を手がかりに、メッダーフルックの一席の口演の形式とその構成要素を確認することにし、メッダーフルックの位置付けについても考察を試みた。昔話と落語を手がかりに、メッダーフルックの本質や位置付けについて考察を行い、メッダーフルックの一席の口演の形式とその構成を明確にした。本研究はメッダーフルックの構造について、そして日本語で行われた研究としては貴重な研究になっていると考える。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>本研究でまとめた内容を、論文としてまとめ、2022年3月に日本笑い学会の「笑い学研究」29号への論文投稿を行いました。審査結果を待っている状態です。</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>【学会発表等】</p> <p>3. 主な経費</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p>					

(本文は2ページ以内にまとめること)